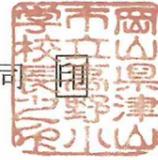


(様式)

令和7年度 津山市立高野小学校 学校評価書

校長 高岡 昌司



1 自己評価

I 評価結果

項目	成果と課題 (達成状況)	評定
<b>【学力向上】</b> ・授業が楽しいと言 う子  <b>【落ち着いた学習 環境の整備】</b> ・児童アンケートを指 標とする ・「授業が楽しい」と 回答する割合80% 以上を達成基準とす る	<教師アンケート>◇「授業で「振り返り」まで」(12月末) 1~5年:ほぼ100%、6年:75% <input type="checkbox"/> 全学年で、1時間の授業タイムマネジメントが定着した。 <児童アンケート> 12月末 ◇「授業が楽しい」87% 「チャイムスタート」87% <input type="checkbox"/> 全学級で共通した指導の事項、日頃の授業について、 改善①まとめ、振り返りまで必ずやりきる力を意識する。 改善②『書く力』の育成として、「びっしり書く」を徹底。 改善③ 主体性の育成として「必ず挙手、名札で表明等」 改善④ 授業の中で仕掛けを実施した。 「ギミックブラッシュアップシート」の活用。 <input type="checkbox"/> 今年度は、授業研究を3回全校で実施。3学期まで全職員が 一人3回は授業研究を行った。 ・非認知能力と認知能力を育てる授業を各学年1人3回ギミッ クブラッシュアップシートを活用して公開した。 <input type="checkbox"/> チーム担任制により日常的な授業の情報交換が定着し、学 年団と生徒指導主事との連携が充実、定着してきた。	<b>A</b>
<b>【体力向上】</b> (徳育)  <b>【自己肯定感】</b>  自分には良いところ があると言う子	2学期末実施 (1)自分には、よいところがある。 本校71% (2)将来の夢や目標を持っている。 本校59.1% 県 59.5% (3)やるべきことを最後まで頑張っている。 本校84% <input type="checkbox"/> おおむね 7 割の児童は自分なりに頑張っている肯定的な 意見がある。先生がよくほめてくれる、認めてくれると感じ ている児童は 8 割になる。 ◇全校による「サツマイモ」や「とうもろこし」、「野菜」等の裁 培活動を実施。別室児童による学級園栽培「すいか」「じ ゃがいも」等を実施。 →今年度は全校で取組、ペア学年で収穫や調理を実施。 ◇個人の頑張りを全校で表彰する取組 「にじりん賞」(英語、読書、あいさつ、自主学習、歌声、なわ とび、など)個々の頑張りを表彰する取組	<b>B</b>

(A: 目標を上回っている B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回っている)

II 分析・改善方策

☆毎週「高野小学校で大切にすること」をプレゼン資料で発信し、具体的な取組とその目的について教職員で共通理解して教育活動を進めた。毎週水曜日、企画チームで学年学級、児童の状況について情報共有を行い、フィードバックする機会をもった。併せて、学校 HP の日々更新、学校通信での現状や全体取組を掲載し、保護者や地域への理解協力のための情報発信を継続的に行った。  
 ☆令和7年度学校情報化優良校に「認定」された。☆地域ボランティア活動の取組で「つやま元気大賞」の【優秀賞】を受賞した。☆チーム担任制の取組が岡山県で【最優秀賞】を受賞し、更に全国で【優秀賞】を受賞した。  
 ☆来年度も引き続き、美作大学との連携事業を実施。(年15回、学生16名が来校し基礎力向上の取組)また、ヨガを取り入れた心と体の取組を新規に実施。

2 学校関係者評価委員会

堀内 映二 氏 (高野連合町内会長)	仲矢 武夫 氏 (老人クラブ会長)
永禮 茂 氏 (高野公民館長)	早瀬真由美 氏 (主任児童委員)
竹林 美和 氏 (元PTA会長)	大谷 大介 氏 (PTA会長)
町田 亘 氏 (元PTA会長)	小川 早苗 氏 (保育園長)
中島 靖代 氏 (幼稚園副園長)	小西真由美 氏 (地域学校協働活動推進員)

3 学校関係者評価

今年度は、地域ボランティアとの連携で「九九チェック」等の基礎学力に関する取組ができて、児童もやる気がUPした。地域との交流が盛んになり、つやま元気大賞優秀賞を受賞した。来年度もさらに、地域の方との交流を充実させて欲しい。学校の様子も3年前から比べると、全体的にとっても落ち着いて、頑張っている児童が増えている。「高野小チーム担任制」の取組が各方面から評価され素晴らしい。学力が徐々に向上し、体力向上も回復傾向にあるのは、先生方が一体感をもって取り組んでいる成果である。学校だよりを毎回読んでいたが、学校が良くなっている状況が伝わっている。情報発信に力を入れているのだから、例えば、QRコードを貼るなど学校HPをもっと見てもらえる工夫があるとよい。保幼小の連携を更に進めることも必要と思う。様々な面で、保護者対応等の難しさもあるが、今後も、学校の考えを具体的に示して説明することが大切だと考える。

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

○今後も「高野小学校で大切にすること」をプレゼン資料及び、学校HPを毎日更新したり、学校だよりでは学校の現状や学校全体での取組を掲載したりして、保護者や地域の理解協力のための情報発信を行っていく。  
 ○学力と同様、体力も本校の課題であることから、来年度も取り組みを継続するが、学期毎に全職員で現状把握と分析を行いながら進めていく。  
 ○今年度の九九の取組のように、地域の方が定期的に学校に来校し、学力向上の取組に参加できるような取組を来年度はもう少し早い時期から計画する。

令和7年度 津山市立高野小学校 学校評価書(別紙)

( A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価		
【学力向上】 授業が楽しいと言う子	①「学びのサイクル」を達成するため、1単位時間の授業で教師のねらいや意図しやりきる。 ○授業タイムマネジメントを徹底する。「めあて～振り返り」を必ず行い、スピード感とテンポの良い授業を重視する。 ○導入や教材の工夫を行い、児童がやってみたい、学ぶ見通しのある授業づくりを行う。 ○岡山大学の中山准教授提唱の「ギミックブラッシュアップシート」等を活用し、指導案の中に感情曲線を用いた、授業検証を行う。	<評価指標> 【教師アンケートで80%以上】  【子どものアンケートで「授業が楽しい」を80%以上】	<教師アンケート> ◇「1時間の授業を「振り返り」まで行っているか」(7月末) 2年:90% 3年:90% 4年:95% 5年:95% 6年:40% □1～5年生は、授業タイムマネジメントがなされ、学年取組もほぼ揃っている。6年は、7～8割の児童は、授業で「まとめ」や「振り返り」まで頑張る状況。 □全体的に落ち着いてきている要因 ・要因① 学年団での生徒指導等を話し、互いの学級を行き来している。 ・要因② チャイムスタート、朝学習の内容・方法・進度が常に揃っている。 ・要因③ 学年主任がインシアチブをとり、学年内の役割分担が明確である。 ・要因④ 初任者に寄り添い、すくなく、やってみる等の対応が素早い。 ◇児童アンケート ◇「授業が楽しい」85% 「チャイムスタートができて」90% ◇全学級で共通した指導事項 <共通して取り組んでいる学力向上対策> ① 短期間での小テスト及び単元テスト等の定着度確認(算・国) ② 授業中における「まとめ」と「振り返り」をしっかりと書く。 ③ 「navima」で必ずやる問題と児童に任せる問題を整理して共有する。 ④ 「よむYOMUワーク」の読解スキルを授業(教科書・テスト)でも活用する。	B	<教師アンケート> ◇「1時間の授業を「振り返り」まで行っているか」(12月末) 2年:90% 3年:90% 4年:ほぼ100% 5年:ほぼ100% 6年80% □全学年で、授業タイムマネジメントがなされ、学年取組もほぼ揃っている。6年生は、8割の児童は時間を守り、授業において「まとめ」や「道徳題」、「振り返り」まで頑張れる状況がある。 □授業改善を進めているポイント 改善① 導入、まとめ、振り返りまで必ずやりきる1時間のタイムマネジメントが定着。 改善② 書く力の育成で「児童は、ふりかえりをしっかりと書く」を徹底している。 改善③ 児童の意思表示として「必ず筆手、〇×、名札で表明等」の機会をもつ。 改善④ 授業で「ギミック」を意識し、GBUSの活用を2学期に3回以上は実施した。 改善⑤ 児童同士の対話の場を設定している。 ◇児童アンケート ◇「授業が楽しい」87% 「チャイムスタートができて」87% □どのクラスもスピードとテンポの意識がある。 □チーム担任制や教科担任制により日常的な授業の情報交換は活発に行っている。 □チーム担任制の取組が日教弘済済会「学校の部 最優秀賞」を受賞した。 総括:1年間で、学校全体で落ち着いた学習環境づくりができた。	A	☆ 毎週「高野小学校で大切にすること」をプレゼン資料で発信し、具体的な取組とその目的について教職員で共通理解して教育活動を進めた。 ☆ 毎週水曜日、企画チームで学年学級、児童の状況について情報共有を行い、フィードバックする機会をもった。併せて、学校HPの日々更新、学校通信での現状や全体取組を掲載し、保護者や地域への理解協力のための情報発信を継続的に行った。	A
	②基礎学力を確実に定着する取組を行う。 ・音読 ・MIM、よむYOMUワーク ・単元テスト、全国や県の学力調査問題の活用 ○全学級で、音読の宿題に取り組む。 音読教材を使用し、朝学習→授業→家庭学習と繰り返し指導する。 ○週末課題で学力調査の過去問題等の読解問題に取り組み、課題のある問題への習熟を図る。 ○タブレットの持ち帰りをを行い、「navima」やNHKforスクール等を活用し、基礎力の定着や自主学習に取り組む。	<評価指標> それぞれの標準スコアで50以上を目指す。	<全国・岡山県学力調査結果>令和7年4月実施 ◇3年国語 60.4(県67.7)-7.3 算数 67.9(県75.8)-7.9 ◇4年国語 62.8(県66.8)-4 算数 68.4(県72.4)-4 ◇5年国語 67.4(県66.2)+1.2 算数 64.1(県67.9)-3.8 ◇6年国語 57.0(県66.8)-9.2 算数 40.0(県58.0)-18 (結果分析) □ 学校全体が落ちつき、授業に集中して参加できることが多くあったこと。ほとんどの児童が向き合い、学年平均では以前よりも改善されてきた。 ・5年漢字や読取が全国超え、半年での漢字指導や音読の取組の成果。 ■ 算数領域は、全学年も図形領域が最も高い。国語では、条件設定の設問に課題大、設問や文章を最後まで正しく読み取れていない。特に、設問の条件を読み落とし、根拠等を確認せずに答える。 ・3～5年は、単純な基礎問題の正答率は平均的だが、意味を考えたり文章化された基礎問題は正答率が下がる。数学の意味を考える学習が必要。 <全国学力・学習状況調査>4月実施 ◇「学校が楽しい」本校85.1(県89.5) ◇「自分には良い所がある」83.7(84.3) ◇「自分で決めたことやり遂げる」89.1(85.8)◇「毎朝毎日やる割合は県より高い」 ◇「授業でタブレットを3回以上使う」67.5(59.8) ※毎日使う割合は県より高い。 ◇「家庭学習を1日1時間以上やる」31.9(53.0) ※30分より少ないが、30%。 ◇「普段、1日2時間以上ゲームをやる」54.1(51.4) ※ゲーム3時間以上は、36% <本校の傾向> 家庭学習時間が少なく、ゲームの時間が長い。3割の児童が、宿題は30分、ゲームは3時間以上。一方、自分が決めたことはやり遂げる、ICT活用率は県より高い。 <1学期単元テスト>1年国85点、算93点/2年国82点算84点/3年国82点算85点/4年国84点算75点/5年国91点算81点/6年国86点算63点 単元テストでその都度、定着状況を確認する。 <宿題提出率> ◇1年100%、2年94%、3年96%、4年95%、5年90%、6年85% □全学年で宿題提出率85%を超えるが、家庭学習時間は30分以下の割合が3割。 <タブレット使用> ◇2年生～6年生以上、毎日タブレットを活用。	B	<秋の学力定着テスト>11月実施 ◇2年 国語 59.7%(県60.9%) -1 算数 68%(県64.6%) +3.4 ※昨年度より改善 ◇3年 国語 53.3%(県61.8%) -8.5 算数 59%(県71%) -12 ◇4年 国語 80%(県57.8%) +23 算数 69%(県67%) +2 ※国算とも大幅改善 ◇5年 国語 81%(県62.1%) +19 算数 59%(県57.2%) +2 ※国算とも大幅改善 ◇6年 国語 71%(県75.7%) -4.7 算数 50%(県62.7%) -12.7 (春からの増減) □3年国語 県平均 -7 算数 県平均-7 □4年国語 県平均 -4 算数 県平均-4 □5年国語 県平均 +1 算数 県平均-4 □6年国語 国平均 -10 算数 国平均-18 【分析】 2,4,5年は、1,2学期、朝学習はじめ、学年団の取組(漢字やプリント等)を徹底して続けた。 4,5年は、過去問及び類似問題に繰り返し挑戦させて、定着状況を確認しながら進めてきた。 3年は取組は丁寧に行っているが、基礎学力が不十分である。人数も多く個別に対応できていない。 6年は真面目に取り組む児童が多く、状況は改善しているが、基礎学力の定着が不十分である。 ◇秋の学力状況調査より(12月結果) (1)家庭学習の時間(1日1時間以上)本校46.7% 県55.3 (2)将来の夢や目標を持っている 本校59.1% 県59.5 (3)授業でタブレットをほぼ毎日使用。本校49.6% 県59.9 (4)授業で落ち着いた雰囲気の中で学習できている 本校77.9% 県76.8 (5)授業では読解解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた 本校78.8 県78.3 <本校の傾向> 家庭学習時間が少なく、ゲームの時間が長い。3割の児童が、毎日宿題は30分、ゲームは3時間以上。一方、自分が決めたことは、やり遂げる。ICTの活用率は高い。 <2学期単元テスト>1年国83点、算90点/2年国84点、算80点/3年国84点、算80点/4年国89点、算75点 <5年国88点、算81点/6年国88点、算68点 ※単元テストでその都度、定着状況を確認している。 <宿題提出率> ◇1年96%、2年90%、3年96%、4年95%、5年94%、6年85% □すべての学年で宿題提出率85%を超えるが、家庭学習時間は30分以下の割合が3割。 <タブレット使用> ◇2025年度 学校情報化「優良校」に認定。総括:学力は2,4,5年で大幅な学力改善が進み、数値も伸びた。	A	☆ 令和7年度学校情報化優良校に「認定」された。  ☆ チーム担任制の取組が岡山県で【最優秀賞】を受賞し、更に全国で【優秀賞】を受賞した。  ☆ 来年度も引き続き、美作大学との連携事業を実施。(年15回、学生16名が来校し基礎力向上の取組) また、来年よりヨガを取り入れた心と体の取組を新規に実施。	
【体力向上】 (徳育)	③運動の習慣化を図り、体力の向上をめざす。  ○朝の高野タイム及びび体育授業において、「リズムジャンプ」、朝運動(朝鬼ごっこ・リズムジャンプ体操等)を取り入れ、全校で運動に取り組む。 ○自分の運動量や体力に対する目標を設定し、自ら「めあて～振り返り」を必ず行う授業を重視する。	<評価指標> ・児童アンケートで「体育の授業が楽しい」 「体力がついてきている」の項目  肯定的な回答90%を目指す。	◇全校で「朝鬼ごっこ」取組を継続 ペア学年 火:1-6年、水:2-5年、木:3-4年 (3分間鬼ごっこで20人つかまえる)雨の日:3分間のダンス ◇全学年で体育の時間の導入にリズムジャンプを取り入れて実践中。  <新体力テスト> 9月実施 「運動がスポーツすることが好きか」肯定的回答 ◇低学年:90%(R6 94%)、中学年:89%(88.9%)、高学年:86%(88.5%) 「体育の授業は楽しいか」完全肯定回答「楽しい」のみ ◇低学年:85%(R6 75.3%)、中学年:69%(77.5%)、高学年:60.5%(51%) ◇新体力テストAB段階の割合、◇男子:30% (R6 27%)、女子:28 (22.2%) ◇運動に興味は90%近く高いが、授業が楽しいと完全な肯定回答になると、高学年になるにつれ60～70%に下がる傾向がある。 □新体力テストのAB取得割合は少しづつ高くなっている。 □多く児童が、外遊びが好むが、具体的な体力項目を児童自身に意識させる必要がある。	B	◇全校で「朝体操・リズムジャンプ・なわとび」の取組を継続 全学年で体育の時間の導入にリズムジャンプ、大縄跳びを取り入れて実践 2学期、3学期もリズムジャンプ継続。  <新体力テスト> 9月実施 「運動がスポーツすることが好きか」肯定的回答 ◇低学年:90%、中学年:89%、高学年:86% 「体育の授業は楽しいか」肯定回答 ◇低学年:98%、中学年:94%、高学年:92% R7年度「新体力テスト」のAB段階の割合 ◇男子:29.6%、女子:27.8% ※男女ともにABの割合が昨年度より上昇。特に、女子は5%以上  □全校で8の字チャレンジ、チャレンジなど目標をもって挑戦する機会を設けている。 □全体的に積極的であるが、6年生女子は一部に的な広がりまでは見られない。  総括:取組は1年間通して継続したが、徐々に成果が始めてきている。	B	☆ 学力と同様、体力も本校の課題であることから、来年度も取り組みを継続する。活動内容が長期に渡ると、マンネリ化している傾向もあるから、全職員で年間計画の見直しを行う。  ☆ 全学年、総合的学習「たかの(つやま)郷土学」の基本カリキュラムが完成した。 (例:3年:高野のお店 4年:高野の自然災害 5年:高野の米作り、マリ交流 6年:高野の歴史、平和集会)	
【自己肯定感向上】 自分には良いところがあると言う子	④全学年とも、立腰の号令で授業の開始、終了を行う。また、学年集会、全校集会等、学校全体で取り組む教育活動(栽培・運動等)を実施し、兄弟姉妹学年等の異学年での交流を意図的に仕組むことで、擁護し擁護される経験や、相手を思いやる非認知能力の育成を図る。  ○集会や活動のたびに、学年や全体で、目標に対する振り返りを行う場をもつ、また、児童一人一人が「めあて～振り返り」を必ず行う。 ○導入や教材の工夫を行い、児童がやってみたい、楽しそうという見通しのある教育活動を大切にしている。	<評価指標> 児童アンケート、 ①「自分にはよいところがある」 ②「将来の夢や目標がある」 ③「人の役に立つ人間になりたい」  85%以上を目指す	<岡山県学力学習状況調査>4月実施 ◇学習状況 (1)自分には、よいところがある。本校83.7% 岡山県84.3% (2)将来の夢や目標を持っている。本校79.8% 岡山県87.1% (3)人の役に立つ人間になりたい。本校97.3% 岡山県85.1% (4)人が困っていたら進んで助ける。本校90.6% 岡山県90.9% (5)先生は良いところを認めてくれる本校85.1% 岡山県91.9%  (結果の分析) □昨年度と比べて、自己肯定感や将来の夢、目標を持っている、人の役に立つ等の項目が、5～10%改善されている。 ◇全校による「サツマイモ」や「どうもろこし」、「野菜」等の栽培活動を実施。別室児童による学級園栽培を実施。 ◇環太平洋大学 特命教授 中山芳一先生の研修(年2回)  【非認知能力の育成】と【高野小学校キャラクター「にじりん」】 昨年度から高野小キャラクター「にじりん」を、「やさしくする」「ねばる」「きりかえる」「おちつく」「楽しむ」「チャレンジ」「一緒にやる」の7つの「にじりん」に整理し、非認知能力の育成と関連させた授業や活動に取り組んでいる。 ◇1学期の給食の残食率 本校R7.1学期 6.33%(昨年度:7.68%)(市:4.67%) 全校挙げての取組が徐々に数値となって成果が出てきている。	B	【令和7年度「2学期生活アンケート」結果(12月実施)】 (1)学校が楽しい。 2学期 87% (1学期) 85% (2)自分には良いところがある。 ▼67% (1学期) 71% ※秋調査 85.1 (3)友達の良いところを知っている。 79% (1学期) 80% (4)友達で悩んでいることはない。 84% (1学期) 82% (5)チャイムスタートを守っている。 87% (1学期) 90% (6)やるべきことを最後まで頑張っている。 84% (7)いろんな先生が授業することは良い。 83% (8)先生は子どもの話を聞き、理解しようとしている。 86% →【アンケート結果分析】 2学期は、1学期と比較しても大きな差はない。「学校が楽しい」は85%を超えている。また、行事やグループ活動を通して、友達の良い面をみる意識も80%と高い。一方、自分に良いところがあるは、約70%に留まっている。 給食残食率とチャイムスタートは、学校全体が落ち着いてきている成果である。 ◇全校による「サツマイモ」や「どうもろこし」、「野菜」等の栽培活動を実施。 別室児童による学級園栽培「すいか」「じゃがいも」等を実施。 →今年度は全校で取組、ペア学年で収穫や調理を実施できた。 ◇IPU環太平洋大学 特命教授 中山芳一先生等を招聘した授業研究会 【非認知能力の育成】と【高野小学校キャラクター「にじりん」】 昨年度から高野小キャラクター「にじりん」を、「やさしくする」「ねばる」「きりかえる」「おちつく」「楽しむ」「チャレンジ」「一緒にやる」の7つの「にじりん」に整理し、非認知能力の育成と関連させた授業や活動に取組。 →「にじりん賞」(英語、読書、あいさつ、自主学習、歌、なわとびなど)個々の頑張りを表彰する取組  ◇1学期の残食 本校 6.33(R6:7.7%、市平均:4.67%) ◇2学期の残食 本校 3.99%(R6:8.77%、市平均:3.79%) →昨年度から残食量が半減した。 ◇令和7年度 津山元氣大賞 優秀賞受賞	B	☆ 地域ボランティア活動の取組で「つやま元氣大賞」【優秀賞】を受賞した。 ほぼ毎日、地域の方が来校。地域ボランティアの充実。年間でのべ1000名以上の方が来校(あいさつ運動を除く)  ・学校運営協議会(CS)主体で「九九」の取組を3学期から実施した。来年度は、学期1回程度、基礎学力の取組を行いたい。 ・また、「高野カフェ」など、学校と地域との双方での新たな交流する場を検討する等、CSにて熟識したい。	